

丹後の新たな「歴史×文化×交流」の拠点へ ～丹後郷土資料館リニューアルの概要について～

- 京都府と京都府教育委員会では、丹後の歴史・文化の探訪と観光の拠点となる「ミュージアム」を目指して、京都府立丹後郷土資料館をリニューアルし、令和8年度中のオープンを目指しています。
- この度、その概要を決定しましたのでお知らせします。

1 新しい丹後郷土資料館が目指すミッション

- 「丹後の歴史・文化の探訪と観光の拠点として、地域の様々な人々と文化をつなぎ、交流と創造を育む『ハブ・ミュージアム』」
…丹後の歴史・文化をコア（核）に丹後地域の魅力を世界に発信し、文化・観光・地域経済の活性化を促す、新しい「ミュージアム」を目指します。



外観イメージ（東南側）

2 リニューアルのコンセプト

- 「地域に受け継がれた『丹後の歴史』と『未来』との融合」

3 施設整備のポイント

(1) 本館は存置し、リノベーション

- 歴史と重厚感ある本館は、存置しリノベーション
※本館（改修）：地下1階、地上2階建 延床面積 1,377 m²

(2) 新たな機能を備えた新館を新設

- 天橋立を真正面から望める本館正面に新館を新設
- 外観は「丹後の未来が天橋立に向かって広がっていくさま」をイメージ
- 国宝・重要文化財も随時公開可能な「公開承認施設」に対応
※新館（新設）：地下1階、地上3階建 延床面積 約 1,900 m²

リノベートした本館展示室
（本館1階）



特別展示室横廊下
（新館1階）



新館2階への階段
（新館1階）



(3) 天橋立を望む「コミュニティラウンジ&ホール」と「カフェエリア」

- 天橋立の絶景を望む新館2、3階に設置
- 天橋立を「生きたコレクション」として位置付け、キラーコンテンツ化

コミュニティラウンジ&ホール(新館2階)



カフェエリア(新館3階)



コミュニティラウンジ&ホールから望む「天橋立」



(4) 「ミュージアム」を実現する展示室等

- 特別展示室
 - ・国宝・重要文化財を中心に、考古資料から、工芸、絵画、彫刻、アートなど多様な作品の展示に対応
- 多目的室
 - ・体験学習やワークショップに対応



多目的室
(新館地下1階)

4 博物館の枠を超えた「ミュージアム」としてのソフト面の強化

- 地域の文化財の展示に加え、丹後の歴史文化の魅力や現代アート、食文化などジャンルにとらわれない多彩な文化を発信
- 子供から大人まで楽しむことができるラーニング・プログラム（体験学習やワークショップ）を充実
- 音楽会やアートイベント、マルシェなどを開催し、観光面はもちろん、地域交流の場として、人と人との交流を促進

5 推進体制

丹後郷土資料館のリニューアルには、各分野のエキスパートが参画



名誉館長 佐々木 丞平
日本美術史家
京都国立博物館名誉館長
京都大学名誉教授



アドバイザー
細川 護熙
陶芸家/芸術家



アドバイザー
コシノ ジュンコ
デザイナー



企画推進プロデューサー
前田 尚武
一級建築士/学芸員
京都市京セラ美術館
企画推進ディレクター
京都美術工芸大学特任教授



企画推進プロデューサー
橋本 麻里
ライター/エディター
甘橘山美術館開館準備室長
永青文庫前副館長

6 スケジュール（予定）

令和6年度中～ 本館改修工事、新館建設工事

令和8年度中 リニューアルオープン

【丹後郷土資料館 概要】（所在：宮津市国分小字天王山 611-1）

- 丹後地域の歴史や考古、民俗分野における調査研究と収集保存、展示普及を行う施設として、「ふるさとの文化史跡を守り、新しい文化を創造する拠点整備」を求めるといふ地元の強い誘致と全面協力により、史跡丹後国分寺跡（宮津市国分）に、昭和45年10月設置した施設。
- 同館敷地にあった丹後国分寺は、天平13年（741年）の「国分寺建立の詔」に基づいて、全国に創建された国分寺の一つ。
- 「詔」では、「国分寺は『国の華』であり、必ず良い場所を選んで建てなければならない」とされており、丹後国分寺は天橋立の全てを一望することができる同地に創建された。



現在の丹後郷土資料館

【本報道発表に関するお問合せ】

教育庁指導部文化財保護課	課長	石崎	電話	075-414-5896
	参事	石田	電話	075-414-5909
総合政策環境部地域政策室	室長	北村	電話	075-414-4380
	企画参事	万所	電話	075-414-4527

